令和3年度新潟市若年者自立支援ネットワーク会議 議題に関する質問・意見について

✓ 議題

- (1) 資料3 「令和3年度新潟地域若者サポートステーションの現状に関して」(報告・計画)
- (2) 資料4 「企画書 地域保健福祉センター及び地区担当保健師との連携について」
- (3) 資料5 「地域就職氷河期世代支援加速化交付金事業」について(令和3年度報告)
- (4) その他各機関による取組等に関すること

✓ 質問・意見

議題	質問・意見		質問への回答	
(1) 資料3 「令和3年度新潟地域若者サポートステーションの現状に関して」(報告・計画)	2021年度は利用者、事業者ともに増加しているとの報告から双方に周知が拡がっているからかと思います。長引くコロナ禍にありながらサポステの様々な工夫等によるものと思ひ感謝します。今後も支援を必要としている人に寄り添った活動の継続を期待しています。	市嶋委員		
	利用者の男女比率が同じくらいになりつつありますが、どのような理由があると考えておられますか。	堀内委員	考えられる理由としては ①2019年度から大きく変化していることから、「働き方改革」が施行されたこと。多様な働き方や、ワークライフバランスを重視する考えが広がり、今まで家事手伝いや介護、主婦などをしてきた層が登録し始めたから ②2019年から新潟サポステは40代の支援を開始したため、40代の無業の女性が相談できるようになったからなどが挙げられると思いますが、その背景には賃金格差や非正規雇用の増加、コロナの影響、将来の不安など様々な問題が関係していると思います。	事務局(新潟地域若者サポートステーション)

議題	質問・意見		質問への回答	
<p>(1) 資料3「令和3年度新潟地域若者サポートステーションの現状に関して」(報告・計画)</p>	<p>様々な理由で就労できないケースがほとんどなので、定着して仕事ができているのかが気になります。</p>	<p>堀内委員</p>	<p>様々な理由で就労に困難を抱える方は多いと思います。本人の意向や状況に合わせて担当が共に考え支援しますので、雇用保険に入らない勤務日数の仕事や、雇用期間の定めがある仕事も含めて、就職後6か月時点での定着率は69%となっています。30%強の方は半年後に退職していることとなりますが、契約満了での退職も多く、退職後は再びサポステで次のステップに向けて相談しています。</p> <p>また、就職後1年間(望めばそれ以降も)定着支援を行い、本人の状況に合わせて相談を受けています。定着支援中に人間関係等で退職する方や、試用期間が更新されない方もいますので、その場合は継続して支援を行います。</p>	<p>事務局(新潟地域若者サポートステーション)</p>
	<p>数字的なものも大事ですが、利用者や卒業者の声や様子が分かると素敵な報告になると思います。</p>	<p>堀内委員</p>		
<p>(2) 資料4「企画書 地域保健福祉センター及び地区担当保健師との連携について」</p>	<p>保健師を含めて多種の専門職が関わることは望ましいとは思いますが、保健師が関わるまでには様々な整備が必要かと思えます。形だけにならない体制作りをして実施して頂きたいです。</p>	<p>市嶋委員</p>		

議題	質問・意見		質問への回答	
<p>(2) 資料4「企画書 地域保健福祉センター 及び地区担当保健師と の連携について」</p>	<p>新型コロナウイルスへの対応で、区役所の保健師が非常に多忙となっています。取り組み自体は大変有意義であると思いますが、現場の負担とならないよう、無理なく長期的な視野のもと進めていただければと思います。 また、各区では社会福祉協議会を中心に、ひきこもり等、生きづらさを抱えた方への支援の仕組み作りが始まっています。その動きとの連携もご考慮いただければと思います。</p>	<p>福島委員</p>		
	<p>長引くコロナ渦の中、様々な悩みや不安を抱えている方々は多くなっています。無理のないスタイルで労働する多様な働き方が必要とされる中、地域保健福祉センターとの連携は、良い取り組みになると考えます。</p>	<p>久住委員</p>		
	<p>良い企画だと思います。経験がありますが、医療との連携はなかなか難しいです。特に民間の場合は連携を考えていないことがあるので、こちらから何度も話をしないとけません。</p>	<p>堀内委員</p>		
<p>(3) 資料5「地域就職氷河期世代支援加速化交付金事業」について（令和3年度報告）</p>	<p>アウトリーチはどのようなケースがあり、どのような流れで支援されてきましたか。具体的に知りたいです。これこそ連携が必要になってくるのではないのでしょうか。</p>	<p>堀内委員</p>	<p>ご指摘の通り、他機関と連携して対応するケースがほとんどです。最も多いケースは、①他機関の利用者の自宅等へサポステスタッフも共に同行、②サポステの説明を行う、③他機関とサポステで役割を分担しながら共同支援が始まる、というものです。（もともとの利用者への訪問相談に同行することもあれば、どちらも初対面の場合もあります）</p>	<p>事務局 (新潟地域若者サポートステーション)</p>

議題	質問・意見		質問への回答	
<p>(3) 資料5「地域就職氷河期世代支援加速化交付金事業」について(令和3年度報告)</p>	<p>アウトリーチはどのようなケースがあり、どのような流れで支援されてきましたか。具体的に知りたいです。これこそ連携が必要になってくるのではないのでしょうか。</p>	<p>堀内委員</p>	<p>ケース例： 男性(30代後半・無業、ブランク3年) 母が社会福祉協議会へ家庭の生活相談(生活困窮)をする ⇒社協担当者とPSCスタッフで自宅へ訪問相談、無業の息子からも話を聞く。 息子は「働きたいが、不安がある」ということでサポステを紹介 ⇒後日PSCスタッフとサポステスタッフが共に自宅へ伺い訪問相談。家庭の困窮の相談はPSC、息子の就労相談はサポステが担当。 ⇒最寄りのハローワークで出張相談を開始</p> <p>その他、アウトリーチ相談のプログラムは「SORORIサポート」チラシもご参照ください。</p>	<p>事務局(新潟地域若者サポートステーション)</p>
<p>(4) その他各機関による取組等に関する事</p>	<p>精神に障がいを持つ求職者が増加していることを踏まえ関係者の理解を促す取り組みを行いたいという記載があります。この課題は現在必要とされている重要な事柄かと思えます。すぐには結果がみえにくいと思えますが取り組みに期待します。</p> <p>新潟市若年者自立支援ネットワーク会議開催要綱第2条第2項の「就職氷河期世代等」の定めですが、今年度対象であった49歳の人は、来年度要綱上は対象外となるため、以下をご検討されてはいかがでしょうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生労働省に合わせて、就職氷河期世代(35歳以上55歳未満)にする 2. 40歳以上の1982年頃までに生まれた者をいう 	<p>市嶋委員 西條委員</p>	<p>新潟地域若者サポートステーションや地域就職氷河期世代支援加速化交付金における支援対象者との整合性を鑑みて検討いたします。</p>	<p>事務局(雇用政策課)</p>